第３回　西尾市総合計画審議会

日　時：令和４年６月 24 日（金)10:00～11:30
会　場：西尾市役所 22 会議室

次　　第

１．会長あいさつ
２．議題
分野横断型重点施策（素案）について
⑴新たな魅力の創造
⑵新たな活動の創造
⑶新たなシステムの創造
⑷新たな居場所の創造
３．その他

配布資料

資料１　分野横断型重点施策の位置付け
資料２　にしお未来創造ビジョン　分野横断型重点施策（素案）

委員

出席

氏名	団体名	氏名	団体名
武内　基亘	西尾市教育委員会	植田　康裕	西尾市子ども会育成連絡協議会
外山　好一	西尾市農業委員会	手島　とし子	ばらネット
齋藤　種治	西三河農業協同組合	中村　行男	西尾市障害者福祉団体連合会
杉田　愛次郎	西尾市文化協会	石川　貞夫	西尾市社会福祉協議会
辻村　和敏	西尾市スポーツ協会	井関　公宏	西尾市老人クラブ連合会
鳥山　欽示	西尾市観光協会	千頭　聡	大学教授
杉浦　明博	西尾市国際交流協会	古居　節男	一般公募
黒野　太郎	西尾青年会議所	朝岡　英雄	

欠席

氏名	団体名	氏名	団体名
黒田　哲也	西三河漁業協同組合	加藤　智子	西尾環境市民塾
小田井　博茂	西尾商工会議所	四方　敦	西尾市医師会

継承略

傍聴　１名

開会

発言者	内容
事務局	おはようございます。秘書政策課長の藤井です。委員の皆様、審議会へのご出席をありがとうございます。定刻となりましたので、第３回総合計画審議会を開始します。小田井委員をはじめ、４名の委員が欠席されていますが、半数以上の委員がご出席されていますので、会議が成立していることをご報告します。また、会議は公開としており、録音と写真撮影もしておりますので、よろしくお願いします。では次第にしたがって会長よりあいさつをお願いします。

１．会長あいさつ

発言者	内容
千頭	おはようございます。暑くなって湿度も高くなりました。体調管理に十分ご注意をいた

発言者	内容
会長	だければと思います。前回は基本構想の議論で、西尾の将来の都市像、目標、将来人口、土地利用を検討しました。そこでは、もっとワクワクするまち、といったキーワードがありました。この会ももっとワクワクさせなくてはいけないかと思っています。今回は、計画の目玉の一つである、分野横断型重点施策として、横につながる大事な施策の提案をいただいたので、われわれも見方を広げて、議論できればと思います。本日は、最大11時半までを予定していますので、よろしくお願いします。
事務局	以降の議事進行は会長からお願いします。

２．議題

分野横断型重点施策（素案）について

⑴新たな魅力の創造

発言者	内容
千頭会長	分野横断型重点施策として４つあります。説明はまとめてしていただいて、議論は区切っていきたいと思います。では、事務局から説明をお願いします。
事務局	事務局より資料説明。
千頭会長	ありがとうございました。全体のワクワク戦略なのでこれを聞いて、西尾がもっといいまちになる、ワクワク感をわれわれが持てなかったら、市民に伝わらないので、その気持ちで議論できればと思います。意見もいろいろあると思うので、区切っていきたいと思います。位置づけについてはよろしいですか。分野横断型は６つの柱をつなぐ横断型で、かつ５年間で特に力を入れるものです。では、１つ目、「新たな魅力を創造」についていかがでしょうか。意見やもっと追加したほういいなど意見があればお願いします。
石川委員	分野横断型の位置づけで、よくわからないのが、分野横断型と文章ではあるものの、分野横断型というのは、市役所の内部の課の分野横断を言っているのですか。
事務局	ご指摘頂いた通り、分野横断は縦割り行政を打破するもので、課を横断しての取組です。中には１つの課に複数の係があるところもあるので、課の中の縦割りもすべて乗り越えて設定していきたいと考えています。
石川委員	基本計画の中には分野横断の内容はないということですか。
事務局	基本計画の中にも載っているものもありますが、分野横断型施策を議論するなかで、新たに取り組むものもの出てきたので、混ざっている状態です。
石川委員	そうすると、たまたま複数あるものが分野横断型ということであるならば、基本計画と分野横断型を分ける必要性がどこにあるのかなと思います。綺麗に分ける意味があるのでしょうか。また内容をみてもワクワクできるものがあるのでしょうか。位置づけから見直しした方がいいのではないでしょうか。施策が横断するのは当たり前だと思います。それを特別扱いすることが問題だと思います。組織の中の問題で、綺麗に分ける必要性があるのかなと思います。
千頭会長	今の意見に関連してご意見はありますか。
古居委員	この内容をよくみると、市長の２期目のマニュフェストの重点施策で、６つあり、窓口に行かなくてもいい市役所、行政サービスのデジタル化、高齢者向けのスマホ教室、西尾市が今後持続的に発展できるよう都市計画の見直し、ソフト・ハード両面からのスポーツ

発言者	内容
	環境の充実、とあります。この市長の施策を重点的に取り上げて、強力に推進していこうという強い意志かと感じました。
千頭会長	実は、最後に事務局に振ろうと思いましたが、分野横断型の施策体系を作って、どう推進していくのでしょうか。関連する課が書いてあるので、これまでと同じと思ってしまいます。従来とは違うやり方で、何かプロジェクトチームを作ってやるとか、進め方はどう考えているのでしょうか。
事務局	ありがとうございます。プロジェクトチームも一つの考えですが、基本は市の担当課が音頭を取っていくことになるかと思います。これまでは、第１分科会から第６分科会まで基本計画の区分に分けて議論してきましたが、今回、第７分科会を作って、これまで関係があまりなかった課が集まって議論してこれを作り上げており、それが非常に意義があると思っています。石川委員のおっしゃるように基本計画に位置付けているものもありますが、それだけではなく文面から読み取れるよう新規事業も進めていきたいと、今回特徴的な施策として考えています。
千頭会長	庁内で第７番目の横断した議論する場を作って、そこで自由な発想が出たと。推進は主な課ということのようですが、それについていかがですか。
石川委員	重点的に進めるということでプロジェクトチームを組んで、とにかく徹底的にやるという姿勢をみるとワクワクしますが、分野横断型という言葉が恰好をつける言葉だけに見えます。総合計画は法的に拘束されるものではないので、もっと自由にワクワクするものをつくったほうがいいと思います。もっと重点施策としてやるんだというようなものを、分野横断型施策という言葉がふさわしいかわかりませんが、これをやるんだということがあればもっとワクワクすると思います。
事務局	ご指摘はよくわかります。分野横断型重点施策については議会からもご指摘を受けており、重点施策を作ってやっていけるのかと意見をもらっています。それについては市長がトップとなってやっていくという答弁もしております。しっかり受け止めて、絵にかいた餅に終わらないようにしたいと思います。また見せ方もありますが、ワクワク感が足らないということなので、見せ方も工夫していきたいと考えています。
古居委員	新たな拠点の創出の進め方がこの内容だと、市街化調整区域を都市計画によって市街化区域に編入して、今までの市のやり方だと組合施行で同意をとってまちづくりを考えていると思いますが、それではだめです。ここには街路が入ってきたりするので、まちづくりをする区域については、刈谷市や安城市では公共団体が整備事業をやって、市が拠点を作っていく強い意志を示しています。公共団体施行ですと、都市計画決定という公的な手法だけで強制的に、と言っては言葉が悪いが、審議会の同意を得ながら公平に進めていけます。そうすると市が段階を経て進めていけます。組合施行だと組合に委ねることになるので、西尾市は公共団体施行に尻込みしているので、こういうときこそ、職員が勉強してやっていくことが確実に必要だと思います。当初から区画整理と言っていますが、特にまちづくりでは、いい手法ですので、ここで実現させてもらいたいと思います。
千頭会長	個別の話は、次回もあるのでそこでお願いします。 先ほどの石川委員からのご指摘をいただいて、それに対し事務局にお答えいただきましたが、いかがでしょうか。

発言者	内容
石川委員	意気込みはよくわかりましたのでそのように進めて頂ければと思います。当たり前のことを言っているだけであって、新しいことでもない。書いてあるだけで終わってしまうのではなく、意気込みを聞いて、そのように進めてもらえればと思います。
千頭会長	第６回目で我々が市長に答申する際に、付帯意見をつけることになるので、今のご指摘は付帯事項として、計画が絵に描いた餅にならないように、推進体制も含めて検討していただきたいと、入れましょう。事務局がやれると言っているので、中身の議論に移りたいと思います。４～５ページについてはいかがでしょうか。
齋藤職務代理	プロジェクト１の新たな拠点の創出ということで、上横須賀はある程度、動きはじめていると思いますが、上横須賀駅となっていますが、名鉄西尾・蒲郡線の存続如何によっては、駅周辺となると、これは難しくなります。名鉄の問題があります。それが駄目なら道路を中心にといったことも考えられます。名鉄はどうなるのでしょうか。古川の陸橋も古くなっています。鉄道の整備という点でお考えを伺いたいです。
千頭会長	進め方として、先に意見を何人かからもらいたいと思います。
手島委員	大きな企業がくると、道路が渋滞します。周辺施設の整備に併せて、どう渋滞を解消するのか道路整備も併せて考えてほしいです。プロジェクト２について、城下町を中心とありますが、吉良も歴史の古いまちなのですが、その記述がありません。城下町を中心にしているのですが、歴史のある町を中心としたほうが、歴史が表立っていいのではないでしょうか。
中村委員	今、齋藤委員からもありましたが、上横須賀駅周辺とありますが、これは事務方で決めたのでしょうか、それとも市民の要望で決まったのでしょうか。以前マスタープランの中に福地駅周辺を住宅市街地として区画整理する計画があったが立ち消えになりました。今、福地に特別支援学校ができたのですが、そこのところに道路が抜けます。周辺は未開発の地なので、そこに福地駅を移転し、開発してもらえれば、副都心として、将来、魅力のある地域になると思います。その辺の意見は取り入れられたのでしょうか。事務方だけでなく、このような意見を聞きながらの方がいいのではないでしょうか。順番が逆ではないでしょうか。上横須賀は、住宅が出来上がっており、開発の余地がないと思います。なぜ上横須賀になったのか疑問です。
石川委員	定住人口増加と言っており、目標人口に達するためには頑張る必要があるのに、少子化対策とかそういったものがありません。もしかすると、基本計画に記載があるのかもしれませんが、少子化対策を考える必要があるのではないでしょうか。それがここに入るのか、基本計画に入るのかわからないので議論が難しくなってきます。それから、上横須賀とあるが、ここだけの言い切りにみえるので、ここだけで終わってしまうと見えます。矢田も保育園や中学校が困ってきています。一定の地域だけみると、他もいろいろあります。そういうところもちゃんと見ていきたいです。また、地域限定、歴史限定、それだと西尾市全体がワクワクしてきません。例えばどこどこは過疎で空き家ばかりになったとか、そんなイメージになります。うまく全地域がワクワクすることにならないかと思います。
朝岡委員	上横須賀駅周辺の名鉄の話はそのとおりで、名鉄が撤退したらこのプロジェクトは難しくなると思います。名鉄が撤退前にこれに着手する必要があります。定住人口を増やす

発言者	内容
	ためには、空き家を市が管理して、市が貸し出すというものがあります。もう一つが市の住宅として、賃貸を経年借りていると所有権が借主に移るという海外事例もあります。所有権が移ればそこに定住するので、そのようなシステムの構築をするのもどうでしょうか。所有権が移って家が自分のものとなったら、西尾市に住み続けるだろうと私は考えています。もう一点がプロジェクト２、吉良にもいいところがあるが、西尾の順海町の街並みも映画に使われてもいいようなところがあるので、是非こんないい雰囲気の街並みがあるということを、このプロジェクトの歴史を感じる街に入れていただきたいなと思います。
千頭会長	ありがとうございます。この段階で、事務局から意見を頂こうと思います。私の意見としては、今のご指摘の中には、全体として取り組むことと５か年で取り組むことを書いているがそのあたりの確認も含めて事務局からお願いします。
事務局	上横須賀駅周辺の整備の件で、名鉄の件は今のところ 2025 年までは存続が決まっており、その後は不透明です。また上横須賀駅は、近くに駮馬瀬戸の大きな工業団地があり、そこに数千人規模の雇用があり、大きな人の流れがあるので、その方たちに名鉄を利用促進してもらい、さらに住宅地として整備をしていこうという流れがあります。さらに先ほど手島委員からご指摘ありました渋滞に関する道路整備についても、今回、分野横断として土木課や地域つながり課も含めてまちづくりを進めていく予定です。また、なぜ上横須賀駅周辺かということについては、市長マニュフェストにも掲載されておりますし、駮馬瀬戸の工業団地の進出が一つ大きな要因になっております。
事務局	名鉄西尾・蒲郡線については、応援団が頑張ってイベントをやってきて少しずつ伸ばしてきたところがありました。それだけではなく、都市計画の観点から市が本気を入れているということを示すという強い意志をもって、上横須賀駅周辺の区画整理、東口の改札を設けるということにしました。駮馬瀬戸ができたことによって 3,500 人の人口増加が見込まれ、最寄り駅が上横須賀駅になるので、ロータリーをつくってそこに迎えに来てもらったり、電車で上横須賀駅を利用してもらうことも狙っています。また石川委員から提案のあった定住人口を増やすということも、ここだけでやるということではなく、基本計画の中で様々な区画整理をやっていくとか、シティプロモーションでも人口増の政策は進めて参ります。 先ほど手島委員からありました西尾城を中心としたまちづくり計画については、今、歴史まちづくり計画を観光文化振興課でやっており、それを重点政策として位置付けていますが、もちろん基本計画で西尾だけではなく吉良地区の文化財の保存活用していくことも位置づけています。 朝岡委員からありました順海町については、西尾市もフィルムコミッションに加入しており、映画の誘致なども始めており、そこでもやっていきます。
千頭会長	次回とその次に、基本計画があがってきます。基本計画を先に議論すると、沢山書いてあるけれど、どれからやるのか、という議論がでてくるし、今回のように重点を先にやると、これだけでないだろうとなります。ですので、基本計画を見たうえで、どの部分を、前期 5 年間でやるのかという視点でもう一度見て頂けたらと思います。ご指摘のところは基本計画のところでも当然触れていく、ということで、一旦ご理解頂いてもよろしいで

発言者	内容
	しょうか。また４回目、５回目くらいのところで全体を見渡す議論ができたらと思います。 　私からの意見ですが、５ページの下の KPI ですが、魅力を感じると回答した人の割合は市民へのアンケートだと思いますが、市民が愛着を感じるのは当然です。定期的に市外の方にアンケートをとる KPI は入れにくいでしょうか。
事務局	この KPI についてはこの１～２か月の間でベースをそろえようと思っています。市内の人が魅力を感じないのに、市外の人が愛してくれるかというのがあるので、まずは地元の皆さんがどのくらい魅力に感じているのか、というところから図っていきたいと思います。

⑵新たな活動の創造

発言者	内容
千頭会長	すみません、時間のこともあるので、最後まで進めたいと思います。２つめ「新たな活力の創造」についてはいかがでしょうか。
朝岡委員	指針に関しては、まったくそのとおりやってもらえばと思います。ただ、プロジェクト１「みんなの力で魅力を創造」のところに、官民・地域連携に加え、学生の力も入れたいと思いました。学生は人を集めるのがうまいので、賑わいができると思います。その場所としては緑川や駅の東側、市役所の北側の広場などを学生に貸し出すのも一つの手だと思います。またスポーツを核とした交流については、人口を増やすのは難しいと思いますが、スポーツを都市としてやっていく上で、成功者の体験談の講演はありますが、あと一歩で成功しなかった人の体験談を聞くのもこれからそれを目指す人にとって貴重な意見になると思います。成功者はあまり挫折していません。あと一歩までいった人、天才ではなく努力してそこまでいった人というのはものすごく努力、挫折を経験しているので、これから何かを目指す人たちが聞くことによって学ぶのも手だと思います。以前あるゲームが一世を風靡したのですが、その会社は倒産しているんです。倒産した後、社長がこうすると倒産するという本を書いてベストセラーになっています。失敗に学ぶのも必要かなと思います。また３つ目「シティプロモーションの強化」については、西尾の抹茶が中国で商標登録されたりしているので、計画を決めたら即動かなければならないと思います。
千頭会長	学生の力をということですね。ではどうぞ。
武内委員	先ほどのスポーツのことについて、西尾市の小中学生が 1.5 万人いますが、今部活をやっていません。中学校はこれから土日は民間委託になります。市長のマニュフェストにもスポーツのまちとあるのなら、特に小中学生に部活だけでなく、スポーツに取り組んでほしいというものをリーディング事業に取り入れてほしいと思います。
千頭会長	いわゆる総合型の地域スポーツということで、地域での受け皿を作りましょうと、大変大事なことですね。他にはいかがでしょうか。
古居委員	ふるさと納税返礼品の件です。新聞によると一昨年西尾市は６億だったのが、昨年は 15 億になったそうです。特に関係団体と協議してやったと思うが、このように市民のために今後もよく関係団体と協議して 15 億が続くように活躍することを期待します。

発言者	内容
千頭会長	ありがとうございました。応援メッセージでした。一番下にビッグデータとありますが、この点について何か意見はありますか。国全体としてはデジタル化ということで、ビッグデータを活用した戦略的プロモーション展開事業となっていますが、このあたりのことについて何かありませんか。鳥山委員、何かありますか。
鳥山委員	最初にも言ったかもしれませんが、あまり流行の言葉は使う必要がないと思います。我々が最も注意したいのは、細部にわたって検討すると、それぞれの価値観で膨らんでしまいます。まちづくりはそもそも誰がやるのか、と言ったらもちろん行政と市民が一緒になってやります。行政の方は仕事としてやるので、その仕事のやり方の規範、考え方等はしっかりとみんなで揉んでもらった方がいいと思います。細かい内容は職員の方でしっかりと、市民に近い形で表現していくのがいいのではないかと思います。ビッグデータとありますが、あまり細分化されるのではなく、考え方、やり方、そして何が重点事項かということだけ、揉んでもらうことがいいのではないかと思います。それから今、私が懸念しているのは食糧問題、それから最近のニュースで、若い人の恋愛率の低下。イコール子どもができないということです。最後は居場所の問題になってくるわけですが、若い人たちが恋愛をして子どもをもうけて、子どもを育てやすい環境で西尾に定住してもらって、西尾の人口を増やしていく。そういうもっともわかりやすいことを中心に議論したほうが実のあることになると思います。その中で、なるべく最新の言葉を使わずに分かりやすい言葉で考え方や規範を表現していく。それがやる気になったり、文章にやる気が満ちていくのは、規範や考え方だと思いますので、こちらの方をたくさん議論したらどうでしょうか。細かいことを揉んでいくときりがないと思います。
千頭会長	ありがとうございました。
辻村委員	スポーツ都市宣言に基づいてスポーツを核としたと書いてあります。野球場の要望を34 年間出していますが、全然できません。陸上競技場も土のグラウンドしかなく、雨の日には走れないので練習ができません。こんな西尾市から全国大会に出る選手が出るわけがないと思います。西尾の陸上部の生徒は安城市まで行って練習しているという状況です。非常に施設が整っていないです。野球場、サッカー、ラグビーのグラウンドを作るということを明言してもらいたいです。
千頭会長	課長が作るとはいえないと思いますが、確かにそうですね。スポーツツーリズムという課題では必要です。鳥山さんのご指摘を受けるとしたら、例えば８ページをご覧いただくと、「新たなシステムの創造」ですが、多分一番大事なのは上の見出しかもしれないです。「テクノロジーのチカラで多様な暮らしを実現（デザイン）する」、このあたりはちゃんと確認するということが大事かもしれません。いかがでしょうか、８～９ページあたりについて。

⑶新たなシステムの創造

発言者	内容
朝岡委員	先程も話に出ました難しい言葉については、私も最初UI/UX とは何だと思いました。私としてはユーザーインターフェイスだとかユーザーエクスペリエンスと書いていただければ分かります。消費者体験、イコール情報のデジタル化、ネット化というふうにまとめ

発言者	内容
	てしまった方がよかったかなと思いました。それからワクワクするということについてですが、これは私案ですが、２つ目に「いつまでも住み続けたいまち」の中に IoT 技術の利活用推進事業、災害対策とあります。災害対策に関しては、持論ですが地震はある程度の予測はできるのでないかと思っています。なぜ今できないかというと、地震の災害対策は内閣府の仕事で、その調査・研究は文科省です。５キロか 10 キロおきに電子基準といって国交省が秒単位で地盤変動のデータを取っているので、それらをデータベースとして活用していくと、例えば地盤が１センチ近く動いたときには何かが起こるのではというように予測できるようになるのではないかと考えています。西尾発の産業革命ということで、この国土地理院と提携して IoT 技術を利用して西尾市は地盤変動を秒単位で把握して地震予測をできるとなれば、これは西尾発の産業革命になると思います。このことに関してさらに詳しくということであれば私も勉強してお話ししたいと思います
千頭会長	ありがとうございました。他はいかがでしょうか。KPI として、マイナンバーカードの普及率とありますが、市の立場としては国からもあるのでここにあげたい気持ちもわかりますが、市民から見るとこれが KPI として挙げられていても、それは行政の話でしょ、と言われそうな気がします。何か他にテクノロジーの力という時に、KPI になる、進み具合を図る尺度としていいものはないでしょうか。
朝岡委員	数年前に住基カードがありましたが、消えました。マイナンバーカードですべてを管理するのは非常に難しいと思います。しかしやっていかなければならないので、やって頂きたいのですが、その前に住基カードという失敗があるので、失敗を繰り返さないように、お願いしたいと思います。
千頭会長	はい、それは西尾だけではないですね。ですから例えばマイナンバーカードを持てば市民生活がこんなに便利になるよ、ということがセットであればよいですね。他にも（指標が）あればいいかなと思いました。他にはどうでしょうか。
杉田委員	このデジタル産業、産業革命について、単純に捉えると生産性拡大、合理化、物をどんどん作るという姿勢です。これが行き詰って環境問題に発展しているので、物を大増産するということよりも、逆に環境にやさしい産業革命、そういうことを盛り込んで頂ければと思います。これからの世の中は SDGｓなど皆さんお聞きになって久しいので、それに対応した産業革命にしてもらった方が良いかと思います。
千頭会長	ありがとうございます。ここは産業革新ですね。農業分野などで、例えばほ場の生育状況などをドローンを使って把握をしてというようなことなどありますか。西尾には結構大規模に運営されている方がいらっしゃると思いますが。
外山委員	４年位前からドローンを飛ばしてセンシングしている人も中にはいます。センシングしても、作業するためにそこへ行く必要があります。肥料をやる場所を見出すために、週に１回とか定期的にセンシングしており、それだけ手間がかかっています。本当はセンシングしながら肥料も撒けて、害虫もそこでみつけて広がらない、スポット散布ができれば、皆が楽になるかと感じています。
千頭会長	そういう技術革新をできるベンチャー企業を西尾が誘致する、などがあるかもしれません。プッシュ型、アウトリーチ型支援は皆さんどうでしょうか。説明は右側に書いていただいていますけれどもよいでしょうか。

発言者	内容
武内委員	デジタルデバイド解消事業の箇所ですが、文中に「デジタルに不慣れな方でも」と書いてありますが、そもそもデジタルに不慣れな方はデジタル自体に興味がないので、こういう方をデジタルの必要性についての認識を持っていただいて興味を持っていただく戦略を付けていただきたいと思います。
千頭会長	ありがとうございます。事務局として今の件も含めてどうでしょうか。
事務局	それではテクノロジーですが、先ほどお話もありました UI/UX、プッシュ型/アウトリーチ型に関して、まだ準備ができていませんが、こういった用語につきましては、基本的に用語解説を欄外に設ける予定をしています。ただ、今意見もありましたように、もう少しわかりやすい言葉でということはありますので担当部局と調整します。 千頭会長からお話のありました KPI ですが、マイナンバーカードが普及することで、市民サービスの ICT 化がこれから進みやすくなっていくという国の方針があり、それを受けて西尾市としてもデジタル化を進めており、普及率を上げていきたいという思いがあります。国は今年度末までに 100%と言っていますが、それは難しいと予測しています。普及率を上げていくことが、このプロジェクトが進んでいるということを市民の皆様が実感できる、ということで設定していますのでご了承いただければと思います。 環境にやさしい産業革新などは、ご意見ありましたように、ここに入れられるように調整していきます。デジタルデバイドの箇所も、ご意見があったようにもう少し踏み込んだ形で検討したいと思います。
千頭会長	ありがとうございます。

⑷新たな居場所の創造

発言者	内容
千頭会長	新たな居場所の創造ということで、居場所という言葉を少し幅広く捉えていただいていますが、いかがでしょうか。
武内委員	西尾市の小中学校で新しく外国人が入られて、子どもはすぐに言葉を習得するのですが、保護者の方たちはなかなか日本語を話せません。多様性に対応する居場所づくりの中に、日本語を話すことができない外国人という記載がありますが、具体的にもう少し明確に、保護者、大人はどうするのかということをリーディング事業の中に記載していただきたいと思います。
千頭会長	中身的には初期日本語教室という、大人の生活者を対象にしたことをここは記載してあります。
事務局	委員からそのような意見があるということは、その記載が足りていないということかと思います。所管は地域つながり課になりますが、リーディング事業の外国人の日本語指導など、他の課もカバーできるように体制は整えていきたいと思います。
齋藤職務代理	農福連携で、私どもは憩の農園ファーマーズガーデンというところをオープンします。そこのすぐ隣に支援学校があるので、そことコラボができればいいと思います。あるいは、興味を持ってもらえればいいと思います。市の支援学校の子どもたちが農業に興味を持ってくれるような企画、行政のバックアップをいただきたいなと思います。よろしくお願いします。

発言者	内容
千頭会長	いかがでしょうか。
朝岡委員	私の経験からも、外国での外出時は片言でも英語のわかるお店しか行かなくなってしまいます。すると行動範囲が狭くなってしまいます。ですので、教育の場を設けるべきだと思いますし、最低限の言葉だけでそれは構わないと思います。もう一点、国でも問題になっている経済格差により塾に通えなくなる子が出てくる、勉強したいけど行けないという子どものためにも市として勉強できる場を設けて欲しいと思います。松下村塾のような、今の学習塾がやっているような詰め込み式の学習ではなく、子どもたちに考えさせる塾ということをやっていただきたいと思います。また、語学だけでなく、これから高齢化にあたって相続の問題が増加すると思います。相続の問題が起こらないよう勉強会を開けたらいいと思います。農福連携については、現内閣の所信表明で言っているので、西尾市には抹茶とうなぎがあるので、是非ここは、力を入れてやっていただきたいと思います。
千頭会長	植田委員、何か意見はありますか。
植田委員	４つ大きな柱が上げられていますが、４番目の、居場所が生活や産業、文化、そういったものと結びつかないような気がしています。西尾市として、新たな居場所を高い位置づけにしようとしているのでしょうか。
千頭会長	事務局、お願いします。
事務局	重点施策として掲げており、強く展開していくという姿勢でもあります。若者が対象ですが、内閣府が居場所に関する調査をしたところ、居場所と感じる場所が多い若者ほど生活の充実度が高く、前向きな将来像を描くという傾向にあります。ですので、この対象は若者だけではないのですが、西尾市の全世代の人にあてはめて、市民の皆様が充実してワクワクした生活、前向きな将来像で未来を創っていただくというところにつながるための第一歩の施策としていますので、ご了承いただければと思います。
植田委員	ありがとうございます。内容がわかりました。ということは、最初に居場所がくると思います。居場所があるから、西尾に住んでみよう、西尾に行ってみようとか見てみよう、という意向が他所から出て、西尾への定住や西尾の産業につながると思います。
千頭会長	ありがとうございます。高齢者の居場所も含んでいますが、何かありますか。
井関委員	居場所づくりは高齢者にとっても大切だと思っています。老人クラブも会員数がどんどん減ってきています。色々な社会の多様化の中で、一人ひとりの考え方や生き方も変わってきています。私たちの時代と異なって、同じ場所でずっと暮らしていくという時代ではなくなってきています。色々な場所へ出かけていて遊んだり、生きていくことができる時代です。年配の人が外へ出かけて行って、楽しんで生きていけるというのは大変貴重なことではないかなと思います。今、包括支援センターで色々なことをやってくださっています。私も町内でいきいきサロンというものを立ち上げて運営しています。やはり女性はたくさん出てきますが、男性はなかなか出てきません。理由は色々とあると思うのですが、女性の方はおしゃべりができるので参加されるのですが、男性は難しく、そういった悩みがあります。ですが、色々なところで、働きかけながら場を作っていくということで動いています。全体的にもそういうことが増えるといいと思います。
千頭会長	相談総合窓口は、最終的には１つの窓口で全ての相談を受けるということでなくて、そ

発言者	内容
	れぞれの部署の相談窓口は維持しながら、横の連携は深めるというように直したいというお話がありました。
千頭会長	それでは、全体を通じて何かありますか
黒野委員	次の会議はどういった話合いになりますか。
千頭会長	事務局お願いします。
事務局	今回は分野横断型重点施策として、前期５年間の重点施策の議論でした。次回は市役所の中全体でやっていく基本計画をご議論いただきます。ボリュームが大きくなりますので、部門を分けて子育て、交通、観光など多岐に渡る部門で皆様にご意見をいただきたいと思っています。
黒野委員	この資料だけで進めていくと、どうしても個人が気になる細かいところばかりに目がいってなかなか話が進みにくいなと感じています。結局、西尾の人口を増やしたいのか、西尾の生産年齢人口を増やすための方策を考えるのか、外から転入してくる人を増やすための方策を考えるのか、という切り口も大事なのかなと思います。ここまで細かく分野別でつくっていただいているので、あとは進めていただくだけだと思いますので、我々は色々な視野、分野から意見を出せるとしたら、考え方の部分になってくるのかなと思いました。 個人的にすごく良いのではないかなと思っているのは、資料２、9 ページのプッシュ型・アウトリーチ型支援事業とありますが、西尾市の公式ＬＩＮＥアカウントの登録は約 10 万人くらいなので、とんでもないインフラだと思っています。ですので、ここを積極的に進めていただければ、ここだけでプッシュ型は完成してしまうのではないかなと思いますので進めていただければいいかなと思います。やり方がわからないという方には、窓口に行けばいいと思います。 もう 1 点は 7 ページのスポーツを核とした交流創出事業の箇所です。全国的に部活が学校の手から離れるということで、市が事業者に委託すると思います。今まで部活であれば自己負担というのはほぼ無かったと思いますが、民間に委託することになると、スポーツにもお金がかかるということになりえます。今、収入格差が教育格差だと言われていますが、またその差が広がっていってしまうと思っています。せっかくスポーツ都市宣言をしていくのであれば、スポーツを頑張る子どもに対して市が積極的に支援するような仕組みができたらいいと思います。
千頭会長	ありがとうございました。杉浦委員何かありますか。
杉浦委員	外国人の人口が市内で１割を超えてきました。確実に増えていますので、日本人だけではなく、西尾にいらっしゃる外国人の方もいかにするのかという方針をはっきり出していく必要があるかと思います。
千頭会長	ありがとうございました。約 10%ですからね、着実に増えています。外国籍の方へはサービスを我々が提供をしなくては、とか支援をしなくては、という発想になりがちですが、本当は逆もいっぱいあります。ですから、その辺りの発想を変えていくということが課題かもしれません。
千頭会長	全体としてこれだけは、ということがあればご発言ください。
黒野委員	資料２の５ページ目の上横須賀駅の所ですが、住宅地を確保する、ということですが、

発言者	内容
	駅の東側にある水田の辺りを開発するといったことでしょうか。そして分譲マンションを建てるといったようなことでしょうか。戸建てを 20 区画くらい建てても何もならないなと感じているのですが、どういった計画でしょうか。
事務局	事務局が現状把握している限りですが、分譲マンション等の建設の予定はなく、市街化区域への編入を考えており、その後、区画整理等で面的整備を行っていく予定であると聞いています。
千頭会長	一般的に言われているのは、日本はなかなか住み替えが進まない、あるタイプの住宅をつくると、その時は良いが一定の時間が経つと全部高齢化する、また、若い世代向けにつくると子どもが転出してしまう、などの特徴が上げられています。うまく市内で住み替えできるような住宅の仕組みができれば、定住していただけるのかもしれません。
鳥山委員	会長のおっしゃる通りで、意図的に一か所に人口を増やすということは非常によくないということは事例でわかっていますので、それはやってはいけないと思っています。ですから、空家対策と定住をうまく組み合わせて、空家の地権者と、借りる人を行政という信頼できる組織が結んであげればよいと思います。行政が間に入れば大家さんも安心して貸すことができるので、そっちの方を重点的に考えて、そこへ定住した人たちは、そこから上横須賀へいけば良いと思っています。意図的に集合住宅のようなものを作らずに空家がたくさんあるので、それを活用していく方向を進めていくとよいと思います。空家を埋めていけば、空家の防犯問題なども片付きます。その人たちにコミュニティに入ってもらって居場所になってもらえばそれで済むので、上横須賀のことは根本的なことを考えるとあまり良くないと思います。
千頭会長	ありがとうございました。

３．その他

発言者	内容
千頭会長	予定していた時間になりました。４回目と５回目がどんな資料が出て、どのような議論になるのか今の時点の予定を教えていただけますか。
事務局	事務局より説明。
千頭会長	次回は行政がやっていることすべてを議論することになりますので、２時間でも済まないかもしれません。できれば皆様、この日は 14 時から 17 時くらいまでをお時間空けておいていただければなと思います。では、本日も色々なご議論、ご意見をいただきましたので、最終的には５回目のところで本日の議論なども加えた修正案を出していただいて、再度議論するようにしましょうか。4 回目はたくさんの分野を細かく議論していくということになるかと思います。本日予定していた議論はこれで全てで良いでしょうか。
事務局	ありがとうございました。次回審議会は 8 月 10 日午後 2 時から予定しています。資料は 100 ページくらいになってしまいますので、ご議論しやすい形に体裁を整えまして、お示ししたいと考えております。改めまして、開催通知は出させていただきますので、よろしくお願いいたします。
千頭会長	それではこれで、終了させていただきます。ありがとうございました。

以上